

事 業 報 告

決 算 報 告 書

(第 2 8 期)

自 平成 1 8 年 4 月 1 日
至 平成 1 9 年 3 月 3 1 日

株式会社 札幌花き地方卸売市場
札幌市白石区流通センター7丁目3番5号

平成18年度事業報告

平成18年度（第28期）の当社の事業活動の概要をご報告いたします。

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過およびその成果

平成18年度の我が国の経済は、海外需要が堅調に推移し、円安水準が続いたことを受け輸出が好調だったことから企業収益も改善、設備投資が増加しましたが、公共投資は歳出削減でマイナス幅が拡大し、住宅投資も減少、この間、個人消費は天候不順の影響もあり横ばいで推移しました。

後半は、緩やかながらも所得の増加が続いており、個人消費が増加、景気を牽引するものの、欧米での金融引き締めの影響などにより景気が減速、輸出の伸び率も鈍化、生産活動の拡大が緩やかになることから、設備投資も伸び率が低下しました。

なお、19年度は、個人消費は、定率減税廃止などによる家計負担増大があるものの、雇用・所得環境の改善持続、退職所得の増加により堅調に推移するものとみられています。

北海道経済におきましては、個人消費は、家計負担増もあって可処分所得もマイナスとなりましたが、消費意欲がやや上向きとなりました。

住宅投資は、持家が增加、賃貸マンションは高水準を維持する半面、耐震偽装問題の影響などから分譲マンションが大幅減となり、総体では微減となりました。

設備投資は、進出企業による工場新設も含め道外大手企業を中心に増加傾向で推移するほか、海外を含む道外需要の堅調さ、道外からの観光客増加などから移輸出の伸びも高まりました。

19年度の見通しは、引き続き景気は力強さ欠くものの、道外需要の堅調持続、個人消費や設備投資の底堅さ、公的需要のマイナス幅圧縮などから、実質成長率はわずかながら前年度を上回る見込みであります。北海道経済は財政面の制約を背景に自立経済への移行期にあり、国内経済に比べ低成長が続く、新規需要創出に向けた道内全体での取り組みが一層求められています。

景気の影響も花き産業については、戦後最長の好景気が続いているとか製造業を中心に回復著しいといわれる景気動向にも見放されているようで、業界関係者を不安にしています。

昨年は、低温、高温、猛暑が極端で、かなり荒れた天候で振り回され、また、昨今の重油、灯油の高騰は、施設園芸に重大な影響を与えております。

一方で、依然として輸入切花類が活発で、これまでは輸入物はどうも品質が悪いという見方が業界に強く、それが輸入の歯止めになるような考え方がありましたが、今は花という商品として同じ土俵に立っており、そのような考えが通用しにくい状況になってきております。

花が有望産業である、誰でも花を欲しがると、あこがれるというのは過去の観念であり、これからは人それぞれに、好きな人は好きなように花を楽しみ、関心のない人は見向きもしない時代になってきているという見方もあります。

社会の情報化が急速に進んだことも花の消費の低落に影響を与えたのではないかとみられており、業界は、ただ花を中心に考え込むばかりでなく、いろいろ世の中や人々の変化に思いをめぐらし、多くの人々を花、特に商売で流通する花に目を向けさせるためのアクションが求められています。

社団法人日本花き卸売市場協会の調査によると、会員市場（155社）の取扱高は、約4,500億円、前年比98.8%でしたが、1998年のピーク時（188社）の5,675億円の8割になっています。

なお、前年に比べ取扱高の減少に起因する統合や廃業、倒産により9市場が減少しています。

当市場におきましては、卸売業者でありました札幌中央花き(株)が、経営の悪化により、昨年6月中旬に破産の申立てを行い、廃業に至りました。

その後、切花複数卸体制を維持、卸売業者は地元資本の企業とし、早期に新会社の立ち上げが必要であるとの方針から、支援を検討していた市場関係者に新会社の設立を要請し、7月末に、はまなす花き(株)が設立され、8月には知事から卸売業務の許可を受け営業を開始したところであります。

このような状況の下で、当年度の当市場の取扱高は数量で、1億5,743万本（前年度1億5,734万本）、金額においては、108億5,377万円（前年度108億6,567万円）となり、数量で、0.1%増、金額では、0.1%減となる前年並みの取扱実績となりました。

なお、道内における花きを扱う卸売市場の取扱高は、180億5千万円で、前年比99.1%であります。当市場の取扱は、59.9%のシェアとなります。

卸売市場として「安全・安心」で「効率的」な流通システムが求められている中、当市場におきましても、北海道の花き流通の大きな担い手として、道央圏の中核的な地域拠点市場として、ますます重要な役割が求められています。

市場の運営につきましても、市場運営協議会を有効に機能させて、公正、効率的な運営に反映させていくことはもちろんですが、今後は、平成21年4月からの委託手数料自由化などの課題についても取り組んでいかなければなりません。

花きの振興、需要喚起につきましても、前年度に引き続き、その推進母体である北海道花き振興委員会に積極的に協力し、北海道花き品評会（切花、鉢花）を同振興委員会を通じ実施し、春の花カーニバル2007の開催にも積極的に協力いたしました。

しかし、総務省の家計統計調査によりますと、花の消費面で、札幌市は全国的に低い位置にあります。今後は、近年関心が高まっている「花育」への取り組みなど、業界一体となった消費宣伝活動の一層の充実が重要と考えております。

(2) 資金調達等についての状況

資金調達

当期中において、新たな借入金、株式の発行、補助金の交付などはありません。

設備投資

当期中に行った設備投資は、構築物で、駐車場ライン引き工事28万円、車止めガードポールの29万円、合計57万円であります。

(3) 直前三事業年度の財産および損益の状況

区 分	15年度	16年度	17年度	18年度
売 上 高	150,598千円	149,717千円	149,517千円	147,878千円
当 期 純 利 益	7,465千円	6,139千円	13,766千円	10,546千円
1株当り当期純利益	18円38銭	15円12銭	33円90銭	25円98銭
総 資 産	770,083千円	812,744千円	810,338千円	761,194千円

(4) 使用人の状況

従業員数 社員 4 名 (男子 2 名、女子 2 名)、パートタイマー 2 名

2 株式に関する事項

- (1) 発行する株式の総数 500,000株
(2) 発行済株式の総数 406,000株
(3) 当期末株主数 5 名
(4) 株 主

株 主 名	持 株 数	株式割合
札 幌 市	204,000 株	50.25 %
札幌花き園芸(株)	164,600 株	40.54 %
北海道植物(株)	19,000 株	4.68 %
(株)北海道銀行	16,000 株	3.94 %
はまなす花き(株)	2,400 株	0.59 %
計	406,000 株	100.00 %

3 会社役員に関する事項

(平成19年3月31日現在)

役 職	氏 名
代表取締役社長	小澤 正明
専務取締役	鴫田 義明
取 締 役	深村 康雄
取 締 役	田嶋 正實
取 締 役	綱木 孝夫
取 締 役	村田 長市
取 締 役	山田 紀雄
取 締 役	佐藤 亮二
監 査 役	田嶋 久嗣
監 査 役	宮原 龍次

注 深村取締役は、平成19年3月31日辞任いたしました。

以上、平成18年度の会社の事業活動の概要をご報告いたしました。今後とも、全力をあげて市場運営に取り組んでまいりますので、関係各位の特段のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年 6月18日

株式会社札幌花き地方卸売市場
代表取締役社長 小澤 正明

損 益 計 算 書

自平成18年4月1日

至平成19年3月31日

(単位：円)

科 目	金	額
【 売 上 高 】		
施設賃貸収入	114,613,582	
売上高割使用料	59,695,705	
面積割使用料	38,176,710	
関連店舗使用料	16,741,167	
精算業務収入	30,439,560	
駐車管理収入	2,825,000	147,878,142
売上総利益金額		147,878,142
【 販売費および一般管理費 】		131,896,364
営業利益金額		15,981,778
【 営 業 外 収 益 】		
受取利息	231,644	
雑収入	2,732,360	2,964,004
【 営 業 外 費 用 】		
支払利息割引料	724,514	
賞与引当金繰入	2,142,006	
貸倒損失	1,092,161	3,958,681
経常利益金額		14,987,101
【 特 別 利 益 】		
貸倒引当金戻入益	13,100	
賞与引当金戻入	2,098,640	
退職給与引当金戻入	314,666	2,426,406
税引前当期純利益		17,413,507
法人税、住民税及び事業税		6,867,500
当期純利益		10,546,007

株主資本等変動計算書

自平成18年4月1日
至平成19年3月31日

(単位：円)

	株 主 資 本				純資産合計
	資 本 金	利 益 剰 余 金		株主資本合計	
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
前 期 末 残 高	470,000,000	50,033,736	50,033,736	520,033,736	520,033,736
当 期 変 動 額					
当期純利益		10,546,007	10,546,007	10,546,007	10,546,007
当期変動額合計	-	10,546,007	10,546,007	10,546,007	10,546,007
当 期 末 残 高	0	60,579,743	60,579,743	530,579,743	530,579,743

上記のとおりご報告申し上げます。

株式会社 札幌花き地方卸売市場
代表取締役社長 小澤 正明

個別注記事項

- 1 この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。
- 2 重要な会計方針に係る事項
 - (1) 棚卸資産の棚卸方法および評価基準
棚卸方法 ----- 実地棚卸
評価基準 ----- 最終仕入原価法
 - (2) 有形固定資産の減価償却方法
法人税法の規定による定率法によっております。
 - (3) 無形固定資産の減価償却方法
定額法を採用しております。
 - (4) 有形固定資産の減価償却累計額 587,145,337円
 - (5) 引当金の計上基準
貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、法人税法の規定にもとづく法定繰入率による繰入限度額を計上しております。
退職給与引当金
従業員の退職給付に備えるため、自己都合による退職金の期末要支給額の100%相当額を引当計上しております。
 - (6) 1株当りの当期利益 25円98銭
 - (7) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
 - (8) 消費税の納付税額の計算方法は、原則課税制度によっている。また、その経理処理は税込方式としております。
 - (9) 会計方針の変更（貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準）
当期より、「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号平成17年12月9日）及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号平成17年12月9日）を適用しております。
従来の資本の部の合計に相当する額は、530,579,743円であります。
- 3 株主資本等変動計算書に関する注記
 - (1) 当該事業年度の末日における発行済み株式の総数 406,000株
 - (2) 配当に関する事項
当期中における配当金の支払いはありません。
 - (3) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの
配当金の支払い予定はありません。